

宮城県立がんセンター広報誌

せりなべ



2025.07 Vol.13

宮人ハ語ル

疫学・予防研究部部长

金村 政輝

おしえてせり爺!

宮城県がん登録室・診療録管理室について



宮人ハ語ル



きせい かねむら
政輝 金村

疫学・予防研究部部長

外科医としてスタートし、 公衆衛生学へ

卒業後、福島県の大原総合病院で外科研修を行い、その後、東北大学第2外科に入局しました。乳腺疾患は、診断から治療、そして、治療後のフォローまで、すべてを見ることができるということもあり、乳腺班に所属しました。乳腺班のチーフであった大内憲明先生が班長をされていた厚生省の研究班において、視触診による乳がん検診の有効性評価を行うことになり、久道茂先生が主宰されている公衆衛生学教室に派遣されました。助教の辻一郎先生のご指導のもと研究を行い、視触診による乳がん検診の有効性は確認されなかったという結果を出すことが出来ました。この研究成果がきっかけで、乳がん検診にマンモグラフィが導入されることになりました。公衆衛生のダイナミズムを目の当たりにする貴重な経験でした。

その頃、たまたま厚生省の若手医師募集というポスターを見かけました。疫学の手法を実際の公衆衛生の現場で役立ててみたい、科学的な根拠に基づくシステムづくりに関わりたいという思いが沸き立ち、久道先生に相談したところ、勧められたのが仙台市でした。仙台市は全国の100分の1の人口で、仙台市で何かモデルができれば、全国に展開できるはずと考え、第2外科の里見進教授にもご説明し、仙台市にお世話になることにしました。

衛生行政医師として、 そして、再び大学へ

仙台市では、地域医療・救急医療対策、感染症対策、がん検診、予防接種を担当しました。係長も経験し、予算や議会対応、マスコミ対応も経験しましたが、システムづくりには限界がありました。

その後、東北大学の名義貸し問題がマスコミを賑わせることになりました。母校の不祥事でした。問題の背景には医師不足があり、地域医療システムの構築が必要だとして東北大学に宮城県の寄附講座が誕生しました。しかし、肝心のスタッフ集めに苦労されていたようです。年度途中の6月、突然、久道先生からお電話があり、再び大学に戻るようになりました。2年10か月の短い期間でしたが、主任教授の伊藤恒敏先生のご指導のもと、医師不足問題に関する実態調査、医師が集まるマグネット・ホスピタルの実現を目指した県内4医療圏での病院の再編統合の協議、医学生の地域医療実習の立ち上げに携わり、共著で3冊を出版することも出来ました。

寄附講座の終了後、医療圏での協議が中途半端に終わってしまったことが残念で、本郷道夫教授の総合診療部、石井正教授の総合地域医療教育支援部で、地域医療教育と外来診療を担当しながら参画の機会をうかがっていましたが、実現することはありませんでした。

そのような中、前部長の西野善一先生が金沢医科大学教授に栄転されることになり、宮城県がん

学生時代

大学時代は陸上部で、中長距離と槍投げがメインでした。北雄杯という学内の駅伝大会があり、毎年、2番手のBチームで参加しました。槍投げは、東医体という東日本の医学部生の大会があるので、最高位は入賞まであと一步の9位でした。



※医学部6年生で参加した最後の東医体

次男が中学で陸上部に入ったのを契機に時々走るようになりました。現在は、お昼休みや夕方に病院の周りを走ることもあります。フルマラソンも走ったことがあります。まだサブフォー（4時間切り）は達成したことはありません。面白そうと思って次男と参加した泉ヶ岳のトレランはとってもきつかったです。ただ、その後、登山が趣味になりました。



※令和元年の泉ヶ岳トレイルラン
(17km男子の部255人中172位)

登録事業の責任者の後継問題が浮上しました。辻先生からお電話を頂戴したこともあり、当院に赴任しました。以後、当院の院内がん登録と宮城県がん登録事業の責任者を務めています。

宮城県立がんセンターで 取り組んでいること

院内がん登録では、宮城県内のがん診療連携拠点病院と協力して、各病院のがん登録の集計結果の公表と施設間の比較を進めています。また、院内がん登録の実務者がいないと拠点病院の指定を受けられないため、地域での人材育成の取り組みを進めています。

平成28年からがん登録推進法という法律に基づいて全国一律の方法でがん登録が行われています。宮城県がん登録室では、病院からの届出を取りまとめ、国に報告しています。また、毎年、「宮城県のがん罹患」というリーフレットを通して宮城県の最新のがん罹患統計を公表しています。

市町村による がん登録情報の活用支援

令和3年度から市町村によるがん登録情報の活用を推進しています。がん対策は、がんにならないための一次予防とがんの早期発見・早期治療を目指す二次予防があります。一次予防は生活習慣の改善で、二次予防はがん検診になりますが、いずれも市町村が事業主体です。しかし、がんの対策を実施していながら、その対策を講じることで、

実際にがんがどうなったのか、を知ることなく事業を展開しているのが実情です。そこで、がん登録情報を利用してもらい、実際に事業を展開すること、がんの罹患や死亡がどのように変化するかを見ていただきたいと考えています。集計結果をリーフレットとして作成していますが、この春、市町村のご了解を得て、初めて公表することが出来ました。

がん登録情報を活用した がん検診の精度管理

がん登録の情報は、がん検診の精度管理にも有効です。あらゆる検査に100%ということはな

く、がん検診でも同じことが言えます。検診の際にがんであったにもかかわらず、異常ありと指摘できなかった場合、これを偽陰性といいます。また、がんではないものをがんの疑いありとして指摘した場合、これを偽陽性と言います。偽陰性と偽陽性の少ない検診が精度の高い検診です。この偽陰性を算出する際にがん登録が必要です。私達は、この精度管理の支援を通して、がん検診の精度の向上に貢献したいと考えています。

執筆者プロフィール

金村 政輝（かねむら せいき）

青森県青森市出身。青森県立青森高校、東北大学医学部医学科卒業。（財）大原総合病院で3年間の外科研修後、東北大学医学部第2外科に入局。東北大学医学部公衆衛生学教室に外向し、乳がん検診の有効性評価に従事。1998年から仙台市健康福祉局に勤務、新設の安全管理係長や感染症対策室長を歴任。2005年、東北大学に戻り、地域医療システム学（宮城県寄附講座）助教授、総合診療部講師、総合地域医療教育支援部准教授を歴任。2015年に宮城県立がんセンター研究所がん疫学・予防研究部部長に採用、現在に至る。

宮人を知る



金村先生は、出張に行くとき必ずと言っていいほど、お土産を買ってきてくれます。しかも、「出張行ったら、お土産買うのが楽しみなんだよ〜」と言って配ってくれるので、先生の気遣いを感じながら、いつも美味しくいただいています。また、（ご自分でも言っていますが）せっかちさんで、見えなくても足音で先生だとすぐわかるくらい、いつも速足です。打ち合わせの後、言い忘れたことに気づいてすぐ追いかけても、もうずーっと廊下の先、ということもしばしば、時にはもう姿が見えないこともあります。ですが、これからも先生についていきますので、どうぞよろしくお願いします。



金村先生は何でもこなす頼れる室長です。室員だけではなく、一緒にお仕事される方は皆さん、そう思われるのではないのでしょうか。どんなに忙しくても相談には丁寧に回答してくださいまし、皆のために良いと思ったことは労を惜しまず力を注がれる先生です。エネルギーでアクティブな金村先生は、趣味やご家族との時間も真っ赤に日焼けして出勤されることがあり驚いていると「週末、自転車で福島まで行ってきた!」とか「週末、山に登ってきた!」とか「出張先で朝ランして!」とサラリと話され更に驚かされます。次のエピソード楽しみにしています。



呼吸器内科
福原 達朗

肺癌の免疫治療の話題

免疫チェックポイント阻害薬をご存知でしょうか。コロナ流行前の2018年のノーベル賞にも繋がった免疫治療の薬剤です。免疫細胞を活性化し癌細胞を攻撃させる治療ですが、現在では様々な臓器の癌において効果があることが証明されています。肺癌でも、進行期の非小細胞肺癌や小細胞肺癌はもちろん、非小細胞肺癌の手術前後においても免疫チェックポイント阻害薬と抗癌剤を組み合わせる治療の有効性が示されています。

一方で、最近ではより対象を絞った免疫治療が登場しつつあります。癌細胞にだけ発現する蛋白

質に結合し、抗体に結合する抗がん剤成分で攻撃する抗体薬物複合体といわれる薬剤や、癌細胞に発現する蛋白質とTリンパ球に発現する蛋白質の両方に結合する抗体で両者を近づけることで抗腫瘍効果を発揮する薬剤もあります。

免疫治療が普及するにつれて、肝炎や肺炎、大腸炎、重症筋無力症など、過剰な免疫反応による副作用を認めるようになりました。さらに新しい強力な免疫治療薬では、全身性の重い副作用が稀に発生することが報告されています。私たちは、より効果を期待できる治療を行うのは勿論ですが、同時に安全に治療を行うことも大事に考えています。当院では、副作用対策も病院全体のテーマとして取り組んでいます。患者さんが頑張った良かっと思える治療になるように、新しい治療の導入に取り組んでいます。

ドクターは伝えたい『がん』のこと



消化器内科
涌井 祐太

肝細胞癌のアブレーション治療

肝細胞癌のアブレーション治療について今回紹介いたします。ラジオ波焼灼療法とマイクロ波焼灼療法があり、前者は450kHz程度、後者は2500kHz程度の電磁波で熱を発生させ、癌を焼灼する治療です。局所麻酔を行い皮膚に10mm程度の切開を入れて、エコーで確認しながら針を肝臓に刺します。その後腫瘍のサイズによりですが、5分から10分程度焼灼します。傷も小さく手術に比べて侵襲の低い治療になります。一般的には3cm、3個以下の症例が適応となります。

2009年から手術とラジオ波焼灼療法を比較したSURF trial

という臨床試験が行われました。5年間の経過では肝切除とラジオ波では、全生存率でも無再発生存率でも有意な差はなく、治療効果は同等と証明されました。肝癌診療ガイドラインでも3cm以下、3個以下の肝細胞癌症例については肝切除とアブレーションは同等の扱いとなりました。

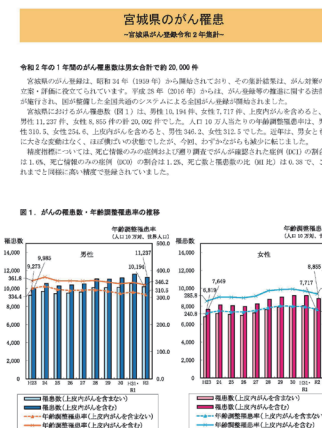
アブレーション治療が適さない場合もあり、癌が肝表面にある場合や大きな血管に接している場合、肝臓の端にありエコーで見にくい場合などです。癌の場所によつては腹腔鏡での肝切除術も行われるようになり、手術でも比較的低侵襲での治療が可能となりました。そのような場合には手術をお勧めする事が多いです。当院では他にもカテーテルを用いた肝動脈化学塞栓術、化学療法、放射線治療も施行可能です。症例により適した治療を選んだり、複数の治療を組み合わせる治療効果を高めたりしております。

おしえてせり爺！
がんセンターを支える

宮城県がん登録室
診療録管理室

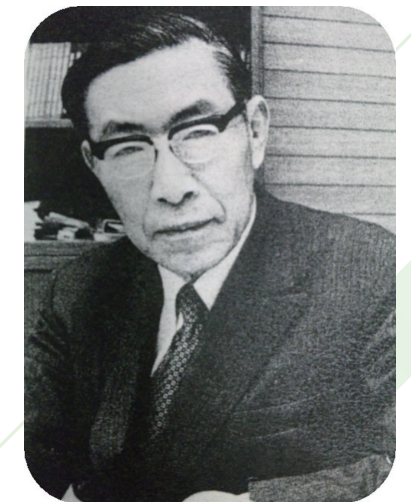
① 宮城県内のがん登録情報の集約と集計結果の公表

別々の病院から同じ患者さんの届出が行われた場合には、名寄せという作業を行い、同じ方の同じがんの情報としてひとつにとりまとめる作業を行っています。また、国と協力して、がんと診断されて死亡された方でがん登録への登録が漏れている方の調査を行うことで、重複と漏れのない精度の高いがんの集計結果が得られています。



昭和 28 (1953) 年、東北大学医学部公衆衛生学教室の瀬木三雄教授が、宮城県医師会報に宮城県のがん罹患の状況について報告しました。これは、日本で最初に行われたがん罹患についての調査結果です。その後、宮城県全域を対象とする地域がん登録事業が始まりました。これが宮城県のがん登録の始まりです。

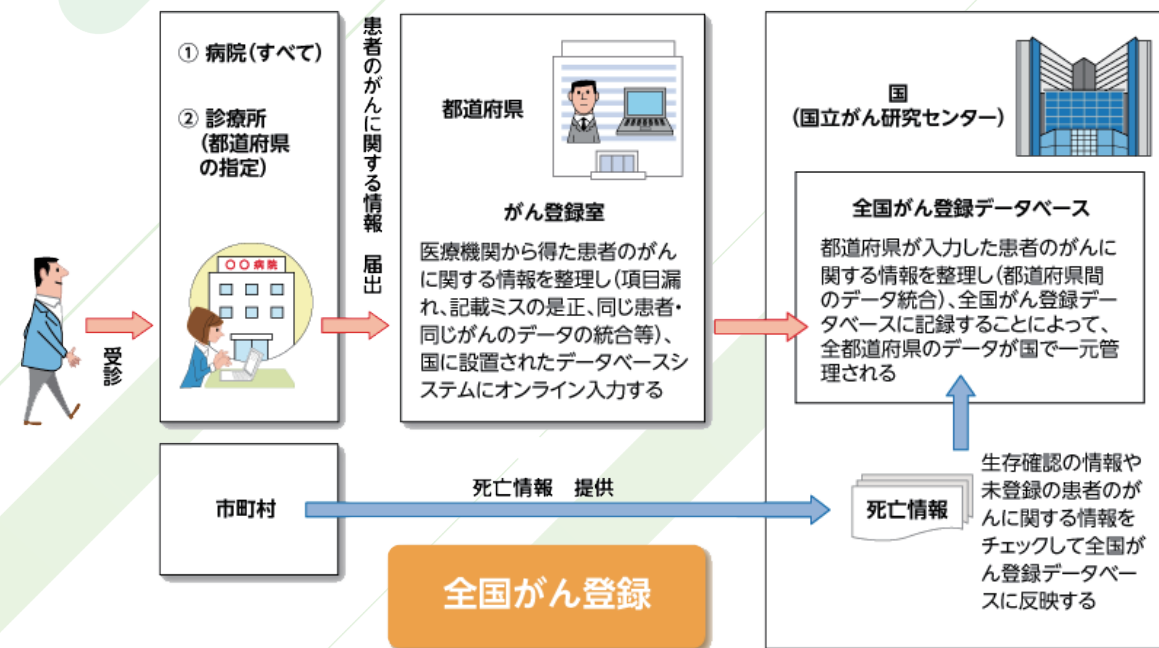
宮城県がん登録事業は、開始から何度か継続の危機に見舞われました。しかし、(公財)宮城県対がん協会、東北大学医学部公衆衛生学教室など関係者のご尽力により、絶えることなく今日まで続いてきました。



④ がん登録情報の利活用の推進

長期にわたる精度の高い宮城県のがん登録情報は、研究者によるデータ利用が盛んであり、がんの疫学研究、がん検診の精度管理や有効性評価に役立てられてきました。

令和3年度から、研究所がん疫学・予防研究部と協力して、市町村のがん登録情報の活用支援を進めています。集計結果をリーフレットとして作成し、提供しており、わかりやすさに工夫を凝らして、好評を得ています。ホームページで公表していますので、是非、自分のお住まいの地域で、がん罹患がどのような状況にあるのかご覧いただきたいと思います。



出典：がん情報サービス (<https://ganjoho.jp/public/institution/registry/national.html>)

② 安全管理措置の徹底

がんの情報を扱うため、宮城県がん登録室では、国のマニュアルを遵守し、業務手順を定め、安全管理措置を徹底しています。また、5年に一度、第三者による外部評価を受けることにより、安全管理体制の強化を図っています。

「宮城県のがん罹患」などの
集計結果
(宮城県のホームページ)



がん登録情報活用支援事業の
集計結果
(宮城県立がんセンターのホームページ)



栄養の本棚

～食べ物と健康のお話～

栄養管理室

今回のテーマは…

栄養補助食品について

「食べる」がうまくいかない時に…

常備しておくと助かる栄養補助食品と選び方



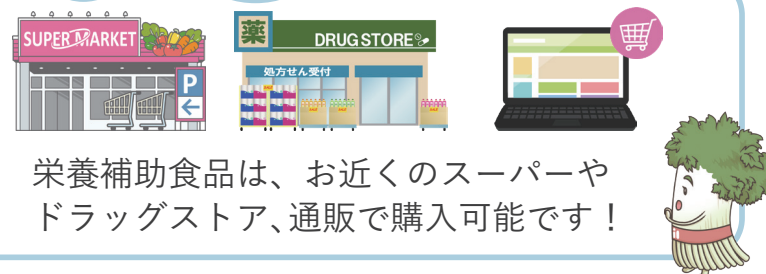
栄養補助食品とは

食事だけでは十分に摂取することが難しい栄養素を補うことを目的とした食品です。がん治療の影響で食事が十分に摂れない、食べられる量が減った場合に使用することで効率よく栄養素を補給できます。

ポイント1 症状や好みにあわせて種類や量を選びましょう！



どこで売っているの？



栄養補助食品は、お近くのスーパーやドラッグストア、通販で購入可能です！

ポイント2 エネルギーとたんぱく質と一緒に摂れる物を選びましょう！



Check!

栄養成分表示を確認しましょう。
エネルギー (kcal) とたんぱく質が一緒に補給できるものがオススメです。

POINT!

栄養補助食品を使用したい場合は、かかりつけの医師や管理栄養士にご相談ください。

～縁の下の力持ち～

診療録管理室の業務



診療録管理室は、8名の診療情報管理士が在籍しています。業務は診療録管理担当と院内がん登録担当の2つの部門があり、それぞれ内容が異なります。診療録管理担当は主に、診療記録（カルテ）のチェックや入院患者さんの疾病統計等を行い、医療の質や医療安全管理に資することはもとより、病院経営への活用などの役割も担っています。また、DPC 請求担当とのダブルチェックを行うことで、正確な DPC コーディングによる適正な診療報酬請求に貢献しています。一方、院内がん登録担当は、当センターで診断あるいは治療されたすべてのがん患者さんの詳細な情報を集め、集計を行うことで、がん医療の向上や患者さんへの支援に役立てています。

* 診療録管理の主な仕事

- カルテの監査… 診療記録の不備をチェックし、改善点を明らかにする

カルテは、診療の証拠であり法的な文書です。また保険請求の根拠や医学教育の資料となるもので、医師や看護師、薬剤師のほか多くの医療スタッフが入力にかかわっています。しかしながら、院内外でさまざまな取り決めがあるため、忙しい医療現場の入力者とは別にチェックの目が必要です。その目になっているのが診療録管理の担当者たちです。チェックされた改善点は月1回の診療録管理部会で検討されています。



* 院内がん登録の主な仕事

- がん登録… がん患者の診断・治療等に関する詳細な登録

当院でがん登録された情報は、毎年、国立がん研究センターに1年分のデータとして提出しており、がん診療連携拠点病院におけるがん診療の状況として、国立がん研究センターが公表している報告書に反映されています。これらのデータは当院を含む全国約880施設から収集され、得られた診療実績を用いて、医療の実態把握を行い、質の向上を図ることや、患者さんの医療機関選択に資する情報の提供などに用いられています。

集計は当院独自でも行っており、当院のホームページで見ることができます。



がん治療とリハビリテーション

～がん治療で身体がつらいのに運動は必要ですか？～



リハビリテーションという言葉の語源は、【リ】再び・【ハビリス】適したという2つのラテン語がベースになっています。つまり、病気やケガなどで障害を抱えてしまった方が、再びその人らしい生活を取り戻し、豊かな生活を送ることができるよう支援していくことをリハビリテーション（以下リハビリ）といいます。実際にリハビリを実施する人は、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の3職種があります。患者さんの生活の再建という目標は一緒ですが、得意とする分野は各自あります。

がんセンターは、がんの専門病院ですが、がん治療をしながら、リハビリを行う事は大変なイメージがあつて当然だと思います。がんになると、がんそのものの症状として痛みや食欲がなくなったり、息苦しさなど体調不良によって寝たきりになったり、手術や抗がん剤治療、放射線治療を受けると、体の機能が落ちたり、歩く・立つなど動作そのものがやりにくくなったります。こんな状況になった時に「がんになったから仕方がない」と思う人が多いかもしれませんが、がんになったとしてもこれまでの様な生活ができるだけ維持し、その人らしく、自分らしく過ごすことは可能です。そのために必要なのが、がんのリハビリです。すでに欧米ではがん医療の重要な分野として認められていて、近年日本においてもがんのリハビリに取り組み病院・施設が増えてきている状況です。

【がんになったから】と諦めるのではなく、【自分らしい生活を送るために】がんのリハビリテーションをぜひ活用してください。楽しい未来に向け、共にがんばりましょうね。

みやがん広報室からのお知らせ

● がん情報ラジオのお知らせ

当センターでは、がんセンターのスタッフががんに関する話題を紹介していくラジオ番組「がん情報ラジオ」をエフエムなとりにて放送しています。

放送時間は、毎週金曜日夕方5時30分から5時44分、翌日土曜日の午前9時15分から9時29分に再放送も行っております。



● ご意見・ご感想の募集

広報誌「せりなべ」に関するご意見・ご感想を募集しております。下記のフォームから皆さまの声をお寄せください。

投稿フォーム



● SNS アカウントを開設しました

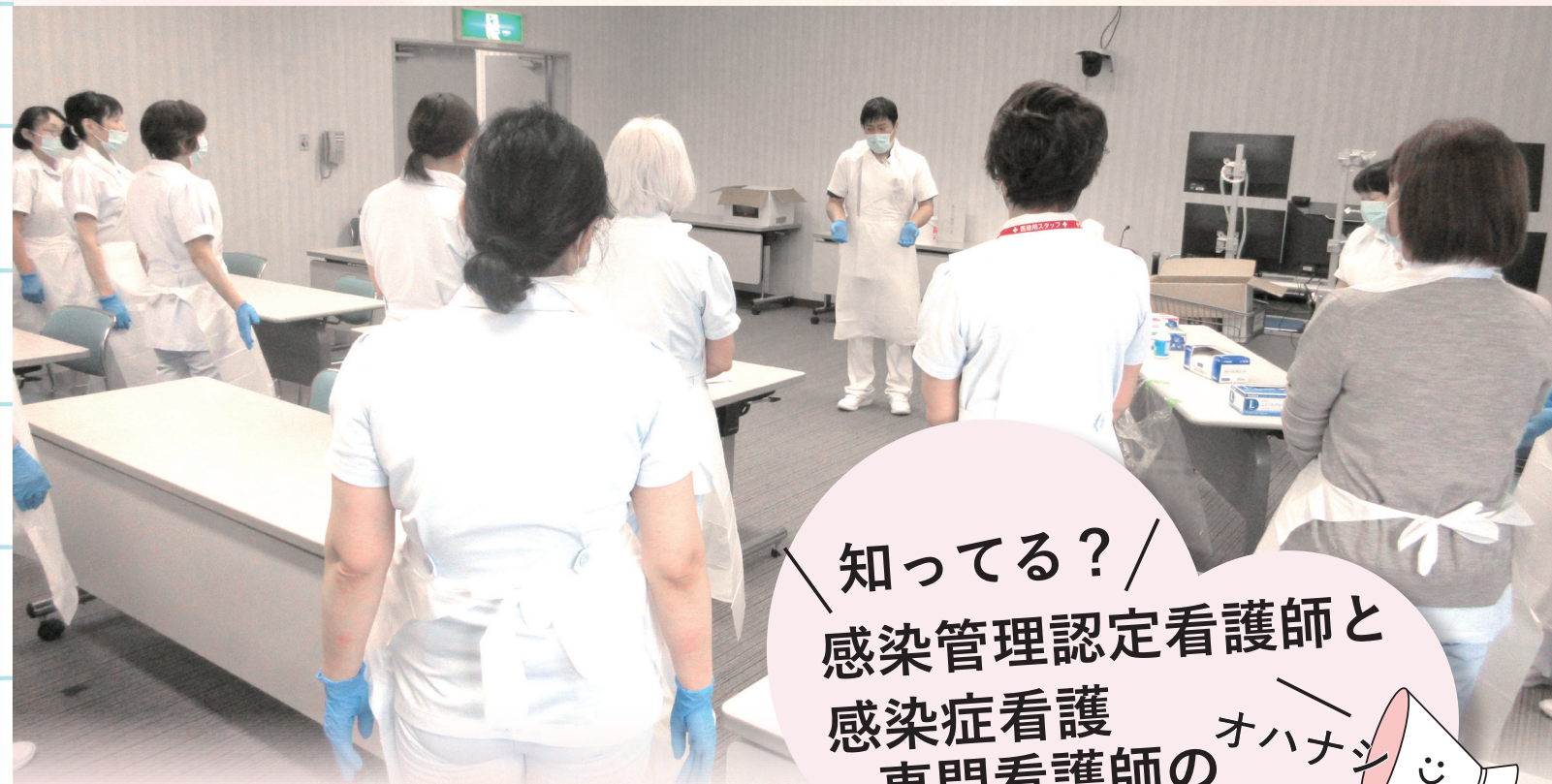
ぜひご登録ください。



せりなべ13号 編集後記

猛暑の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。今号ではがんセンターおよび宮城県のがんデータベースを司る金村先生に貴重なお話を伺うことができました。当院では「治療終了」ではなく、がん治療を行った患者さんの様々な情報を、将来・未来の人々のがんの予防・治療に役立てるよう今後も取り組んで参ります。

文 海法 道子



知ってる？/
感染管理認定看護師と
感染症看護
専門看護師の
オハナシ

看護領域における感染症の予防・拡大防止のアプローチには、「感染管理」と「感染症看護」の2種類があります。近年、これらを含めた学問として「感染看護学」といわれることもあります。

「感染管理」は、主に集団を対象に、感染率や感染の危険となる要因について、統計学などを用いて現状を評価し、問題解決することを得意としています。一方「感染症看護」は、集団に限らず、感染症にかかりやすい、または感染している患者さんなど個々について、感染しやすい身体的状況、社会・精神面など様々な背景から状態を評価し、それぞれに見合った感染予防対策を講じます。

当院では「感染症看護専門看護師」「感染管理認定看護師」の資格を有する看護師が在籍しており、それぞれの得意とする問題解決の視点を組み合わせ、安全な医療・看護の提供に努めています。また、院内にとどまらず、周辺他施設と連携し、地域全体での感染防止活動にも積極的に取り組んでいます。

ご自宅での感染予防やご施設での感染拡大防止など、感染に関するご質問等がございましたらお気軽にお声がけください。

専門看護師とは

日本看護協会が認定する資格で、特定の専門看護分野において高度な知識と技術を備え、質の高い看護ケアを提供する看護師です。役割は「実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究」の6つで、現場実践に加え、教育や研究の活動があります。



認定看護師とは

特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を有し、日本看護協会が認定した看護師です。役割は「実践・指導・相談」の3つで、現場での実践力が重視されます。



駒木根 瞬（感染管理認定看護師）

菊地 義弘（感染症看護専門看護師／感染管理認定看護師）



【せりなべの料理人】

編集委員長：海法道子

副委員長：猪岡京子、菅尚明

編集委員：鎌田真弓、渡邊香奈、大久保鉄平、森谷鳳太、佐藤美和、佐竹直子、山口佳代、高橋央

写真・構成：高橋央、野村結花、森谷鳳太

宮城県立がんセンター広報誌

せりなべ 夏号 2025年7月1日発行 Vol.13

みやがん広報室

検索

本誌はホームページからでもご覧いただけます。



地方独立行政法人宮城県立病院機構

宮城県立がんセンター

〒981-1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山47の1

<https://www.miyagi-pho.jp/mcc/>

【広報誌に関するお問合せ】TEL 022-384-3151 (代)

